

令和 4 年度

事業者番号	0044	事業所番号	018401
-------	------	-------	--------

事業所の地球温暖化対策計画・実施状況報告

1 事業所の概要

(1) 事業所種別

事業所種別	C 平成20年度以降の3か年度(年度の途中から当該事業所の使用が開始された場合にあつては、当該年度を除く3か年度)連続して、年間原油換算エネルギー使用量が1,500kL以上の事業所(他の事業所の一部(区分所有部分、テナント部分等)である事業所は除く)
-------	---

(2) 事業所及び事業内容

事業所名	日立金属株式会社 桶川工場		
事業所所在地	市区町村	桶川市	
	字・地番	大字上日出谷1230番地	
産業分類名(中分類)	23 非鉄金属製造業		
分類番号(中分類)	23		
事業活動の概要	事業内容	事業概要 : 特殊耐熱・耐食・耐摩耗合金の製造・研究開発・販売 従業員 : 410名 敷地面積 : 278,795m ²	

2 事業所の温室効果ガス排出量の削減目標

(1) 第3計画期間の削減目標

計画期間	2	年度	~	6	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)	削減計画期間の平均削減率を基準排出量の20%以上とします。(必要に応じて排出量取引を活用)			
	その他ガス				
エネルギー起源CO ₂ の削減目標の概要	排出可能上限量(計画期間合計)	206,928	t-CO ₂		
	削減目標量(計画期間合計)	51,732	t-CO ₂	事業所区分	第2区分

(2) 第4計画期間の削減目標

計画期間	7	年度	~	11	年度
削減目標	エネルギー起源CO ₂ (必須)				
	その他ガス				

3-1 事業所の温室効果ガス排出量

(1) 原油換算エネルギー使用量の推移

原油換算エネルギー 使用量(kL)	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
	16,733	15,749			

(2) 計画期間の温室効果ガス排出量の推移

CO₂換算 (t-CO₂)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エ ネ ル ギ ー 起 源 CO ₂	33,005	31,352			
前 年 度 比 (%)	—	-5.0			
そ の 他 ガ ス	非エネルギー起源 CO ₂				
	メ タ ン				
	一 酸 化 二 窒 素				
	ハイドロフルオロカーボン				
	パーフルオロカーボン				
	六 ぶ っ 化 い お う				
三 ぶ っ 化 窒 素					
温 室 効 果 ガ ス の 合 計	33,005	31,352			

(3) 計画期間の温室効果ガス排出量原単位の状況 (エネルギー起源CO₂)

CO₂換算 (t-CO₂/指標)

	計 画 期 間				
	令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)
エネルギー起源CO ₂ 排出量原単位	2.8633	2.6979			
前 年 度 比 (%)	—	-5.8			
活 動 規 模 の 指 標					
出 荷 額	11,527.00	11,621.00			
単 位	百万円/年				

(4) エネルギー起源CO₂排出量の増減に影響を及ぼす要因の分析

令和2年度 (2020年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	無
	コロナ禍による生産減に伴う設備稼働率の減少。 北門外部便所→14.9㎡を解体 北門守衛所→21.06㎡から56.7㎡に増築					
令和3年度 (2021年度)	建物の床面積の増減	有	建物の用途変更	無	設備の増減	有
	生産回復に伴う設備稼働率の向上により、原単位が5.8%改善した。 銅合金事業終了に伴う製造設備の撤去および電力使用量の減少。 原料置場上屋→270.29㎡を解体 消防車用カーポート→16.75㎡を新設 登記簿を基準に床面積を全面見直し。					
令和4年度 (2022年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和5年度 (2023年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	
令和6年度 (2024年度)	建物の床面積の増減		建物の用途変更		設備の増減	

3-2 温室効果ガス削減目標に係る状況

(1) 基準排出量

基準排出量	51,732	t-CO ₂ /年
基準排出量の検証	実施済	

(2) 基準排出量の変更

	変更年度	変更量 (t-CO ₂ /年)
1		
2		
3		
4		
5		

(3) 目標削減率

目標削減率の区分	第2区分
----------	------

(4) 削減計画期間

2	年度から	6	年度まで
---	------	---	------

(5) 年度ごとの状況

(排出量等の単位: t-CO₂)

		令和2年度 (2020年度)	令和3年度 (2021年度)	令和4年度 (2022年度)	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	削減期間 合計	
基準 排出 量 等	基準排出量(A)	51,732	51,732	51,732	51,732	51,732	258,660	
	目標削減率の 緩和措置							
	トップレベル認定							
	目標削減率(B)	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%	20.00%		
	排出上限量 (C = Σ A-D)							206,928
	排出削減目標量 (D = Σ (A × B))							51,732
実 績	エネルギー起源 CO ₂ 排出量(E)	33,005	31,352				64,357	
	削減率 (F = (A - E) / A)	36.20%	39.40%				—	
	排出削減量 (G = A - E)	18,727	20,380				39,107	
各年度の排出量の検証		未実施	未実施					

4 温室効果ガスの排出の抑制等に関する措置の計画及び実施状況

No	対 策 の 区 分			対 策 概 要	実施 予定 年度	実施 した 年度	推計 削減量(t) (1年度 当たり)
	区 番	区 分 名 称					
		大 区 分	中 区 分				
1	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	電球をLEDへ交換することにより、電力 削減を図る。※R 4 も継続	R3	R3	65.0
2	360700	ポンプ、ファン、ブロー ー、コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	300 k Wコンプレッサーの更新	R3	R3	26.0
3	320200	ボイラー、工 業炉、蒸気系 統、	32_加熱及び冷却並 びに伝熱の合理化に 関する措置	加熱炉集約操業	R3	R3	663.0
4	370700	電動応用 設備、電気加 熱設備等	37_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	加工時間短縮	R3	R3	55.0
5	490200	その他	49_その他の削減対 策	リングミル品の歩留まり向上	R3	R3	297.0
6	380700	照明設備	38_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	電球をLEDへ交換することにより、電力 削減を図る。	R4		49.0
7	360700	ポンプ、ファン、ブロー ー、コンプレッ サー等	36_電気の動力・熱等 への変換の合理化に 関する措置	工業用水循環ポンプ更新	R4		68.0
8	490200	その他	49_その他の削減対 策	自動測定機導入によるリングミル歩留向 上	R4		2.7
9	490200	その他	49_その他の削減対 策	圧延加熱炉AMS2750規格対応	R4		187.0
10							
11							
12							
13							
14							
15							

5 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価

(※希望者のみ記載)

自由記述欄

令和3年度より銅合金事業を終了。